

# 株式会社 協同工芸社

- 所在地：〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港 152
- 代表者：代表取締役社長 箕輪 晃
- 創業・設立：1969年
- 事業内容：看板、サイン企画・内装・製作・設計・施工
- URL：<http://www.kyodokogei.co.jp/>



【取材対象者】

代表取締役社長 箕輪晃氏

## 【想いを形にする、クリエイティブなものづくり】

45年の確かな実績、自慢のスタッフがどこよりも速く制作。  
クリエイティブパワー、若い力を生かして更なる高みを目指す。

### ■二十歳のころは何をしていたか？

二十歳のころは自動車販売の営業マンをしていた。車にはあまり興味がなかったが、会社では売上が五本の指に入る営業マンであり、成人式にも行かないで働いていた。

当時は、完全歩合制で一時期の年収が500万円程に達することもあった。頑張って販売するほど給与が上がり、とても面白かった。

### ■二十歳のころにしておけばよかったことはなにか？

高校生時代にあまり勉強に興味がなく、成績もよくなかった。高校卒業後には自動車販売業をしていたが、もし戻れるなら、色々な仕事してみたい。

### ■人生の転機はなにか？

人生の転機は2つある。

1つ目は、家の近くの教会で、クリスチャンになったことだ。日曜日に礼拝に行き、子供達と過ごすことが習慣となった。そうした活動により、自動車販売業で稼いだお金をギャンブルに費やす生活から抜け出すことができた。

2つ目は、協同工芸社の社長になってから一年目に、千葉県の優秀経

営者賞の県知事賞をもらったことだ。千葉県の数ある企業の中で、私が選ばれたことは、とても嬉しく、誇りに感じ、励みになった。

### ■社長が考える三方よしとは？

売手よしは、従業員への配慮。従業員が自由に活動できる環境づくりを徹底している。若い世代で話し合いをして、新しい企画を提案するなど、のびのび活動することができる職場作りに努めている。

買い手よしは、お客様への配慮。費用対効果を大事にしている。低コストでよりよい商品を提供することで、消費者は買いやすくなる。コストパフォーマンスを上げるという商売の基本が一番だと考えている。

世間よしは、社会への配慮。「世間に貢献する」ということには、あまり意識していない。しかし、「WATASHI プロジェクト※」で余った材料を無償で大学に提供するなど、協同工芸社が携わった人に、少しでも何か役に立つことができれば

※「WATASHI プロジェクト」とは。看板作りなどで余った材料を無償で美術大学などに寄付したりすることである。

よいと考えている。

### ■企業で求めている人材は何か？

素直な人を一番求めている。大事なことは、素直さ、情熱、能力の3つであり、大企業は能力を優先する。しかし、私の会社では素直な人を優先している。なぜかというと、素直であるということは吸収力が高いということだからだ。

また、情熱が高いということは向上心が高いということ。入社した段階では能力はさほど重要ではなく、私の会社で育成する自信もあるので、素直で情熱を持っている子が私の会社に来てもらいたい。

### ■従業員の平均年齢が低いことを生かした強みはなにか？

業界で戦っていくうえで、平均年齢の低いほうが業績はいい。

教育というよりは、競争させたほうが人材は伸びる可能性がある。競争意識があつてこそその教育だと考えている。

入社一年目の子がインターンシップを担当していて、教えることによって仕事が身に付き、成長することができる。

■将来の協同工芸社をどうするのか？

目標は、良い人材を集めて、デザインを含めてもっと「できる」会社にするのと、協同工芸社を世界一にすることだ。世界一にすることはできない夢ではない。なぜなら日本一になれば、世界一になる可能性が高いからだ。これは貨幣価値の問題があり、日本の円というのは世界水準で見て高い部類にあるからである。世の中の課題をデザインで解決できる、世界一の企業になりたい。

#### ■編集後記

◎吉田 優太

私が協同工芸社様を訪ねる前までは看板を作っている会社に対してあまりよい印象をもっておらず、興味もそこまでありませんでした。しかし、協同工芸社様を訪ねて社長に話を伺ってからは印象がガラッと変わりました。

CSR活動のWATASHIプロジェクトをはじめ、若い社員が積極的に発言、活動できる場など、協同工芸社様ならではの取り組みがいくつもありました。

また、社長の協同工芸社に対する思いなどを聞いてここは素晴らしい企業だなと改めて感じる事ができて、これも社長のこれまでの経験などが活かされて、今の協同工芸社様があるのではないかと感じました。協同工芸社様をヒアリングできたからこそCSRの理解を深められたのではないかと感じました。

この度は本当にありがとうございました。

◎飯田 大暉

協同工芸社様は従業員一人一人の意識が高く、仕事もほぼ人の手で行う手作業が多いことがわかりました。それも個性がそれぞれ仕事に出ていて、自分にあっているというような感じでした。「好きなことを仕事にする」ということは難しいけれど、それができれば個性が活かせるようになり、仕事が捗るのだと思いました。

また、箕輪社長が「従業員にまかせてあげることで、その人の個性を生かし、デザインの発展につながるのだ」とおっしゃっていました。その言葉に私は、個々のやりたいことを尊重してあげることで結果出せるのではないかと感じました。そういった一人一人の考え方があって、今の協同工芸社があるのではないかと感じました。

減多にできないヒアリングの機会を設けてもらい、本当にありがとうございました。

◎嶋田 悠希

最初に私が思ったことは、この社長さんのところで働けば、絶対自分のベストパフォーマンスで仕事ができるということです。箕輪社長は私たちにとてもわかりやすく、尚且つ明快に話をしてくれました。私の将来の就職先が、このような社長が経営する会社だったら、働きやすく、何でも相談ができ、従業員として幸せになれると思いました。

箕輪社長と協同工芸社様の皆様だったらデザインや物づくりで、世の中を変えられると思います。

このような機会を与えてくださった千葉市の方々、協同工芸社様の皆様、本当にありがとうございました。



#### ■敬愛大学経済学部経営学科粟屋教授より総評

本プロジェクトは、大学生が千葉市の企業を訪問し、経営者の哲学を学び、その哲学がCSRにいかにか反映されているかを学ぶものである。よってヒアリングさせていただき経営者の生き様や人柄が、学びの大きな鍵を握る。箕輪社長は、「働く」ということに対し非常にストイックであり、サラリーマンであった若い時代より、人一倍の努力をされ、高みを目指すだけにご苦労も多かったと思われる。

経営トップである現在、そのご苦労が、従業員に対する思いやりとして具現化されている。従業員の自立・自律の精神が意義ある仕事を生み、それは顧客への商品やサービスに反映される。箕輪社長ご自身はCSRに対して意識をされていないようであるが、日常の経営がCSRそのものである。働く背中を見せてくださった箕輪社長、またスタッフの方々に感謝申し上げる。